

豊高SGH
フェアトレード班
通信
2015年
6月11日
第7号

フェアトレードとは途上国の生産者に対して等なパートナーとし適正な価格で継続的に取引してフェア（公正）なトレード（貿易）をめざす取り組み。

開学 武田先生の講演

六月八日（月）の課題研究は、関学の人間福祉学部社会起業学科教授の武田丈先生に来ていただきました。社会科教室で講演していただきました。従来のフェアトレード班に2組の別府さんが加わり十一名で話を聞きました。

様々な社会問題を出し合った後、社会問題を解決するための起業に注目が高まっているという話がありその例としてまずニーズを抱える人に有料でサービスを提供する起業が紹介されました。ムハンマド・ユヌスさんのグラミン銀行はノーベル平和賞を受賞しました。次に雇用することによってニーズのある人を支える取り組みとしてホームレス支援の雑誌『ビッグイシュー』やアルミ缶集めのホームレスの人の自転車修理技術を生かした「ホームドアー」という企業（関学の卒業生も創始者の一人）の例が紹介されました。そのほ

かベトナムのホーチミン市で知的障害者を雇用するカフェアやフィリピンのマニラでストリートチルドレンやスラムの若者を雇用するレストラン（いずれも日本人が起業）の例もありました。

三番目の公正な貿易によってニーズを抱える支援していこうとするのがフェアトレードとなります。コーヒーの価格を例にとつて複雑な流通ではなく、生産者と消費者の間をシンプルに結びつけるのがフェアトレード団体の役割だとの説明がありました。そしてビジネスとしてのフェアトレードの進め方の説明がありました。フェアトレード団体の活動は社会的起業の一つなのだと思えて認識しました。

その後インドネシアのAPIKRIについてスライドの写真を交えて紹介してもらいました。零細な工芸品生産者の協同組合なのですが村全体の発展・活性化を図るという方針その特色だそうです。サンタン村のココナッツビジネスなど興味深い事例も教えてもらいました。

武田先生は生徒に気さくに語りかけてくださりわかりやすく説明してくださいました。生徒諸君ももっと食らいついてほしいかと思います。



感想文紹介1

まず前回の小吹先生の講演の感想につき
 ☆世界の人口の十分の一以上の人が字が読めないということが字が読めるのが当たり前だと考えていた僕からしたら衝撃的だった。最初からフェアトレードという方法があったんじゃないかとODDやミレニアム開発目標などの取り組みには問題があり、それをビジネスによる手法によってやるというのがフェアトレードということは初めて学べました。(M)

☆生産者を守るためにその金額以下では買わないという最低価格保障をするフェアトレードは持続可能である必要がある。(I)

感想文紹介2

今回の武田先生の講演についての感想
 ☆自分が知らないところで色々な企業が社会のため世界のために働いていると知った。特に二十代の若い人たちがホームレスの人たちの自転車修理の技術を買ってビジネスにしているという話を聞いたときはすごいなと思った。十歳ほどしかかわらない人たちが社会のために動いているとわかって自分たちができることがあるのでは、と考えた。土曜と今日とフェアトレードの具体的な内容、APIKRIの様子などを知れて本当に興味が増したフェアトレードしたいという気持ちが高まった。そして自分達ができることの大さや重
 大さがわかった。(O) 続く